

# AIの可能性と限界

早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター顧問

野の口ぐち悠ゆ紀き雄お

- \*ボタン認識はAIの最も華々しい成果
- \*GFA企業はプロファイリングで成長した
- \*データを与えればAIが記事を書く
- \*脳の仕組みを真似たニューラルネットワーク
- \*ディープラーニングには理論はない
- \*思考法の大転換を迫るデータ駆動型経営
- \*AIに付いて回る過学習という問題
- \*AIが持たない汎化能力をどう補うか
- \*今あるAIは全て特化型AI
- \*AI時代にどう生きたらいいのか



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

今日は、皆さんよくご存じの野口悠紀雄先生  
においていただきました。東京大学の工学部を  
出られた後、大蔵省に入られ、その後、留学を  
経て一橋大学、東大、それから早稲田大学で教  
鞭をとってられました。現在はファイナンス  
の専門家として、もう大学で毎週講義をされて  
いるというわけではありませんが、相変わらず  
最先端の研究を行っているということござい  
ます。

今日は、テーマがAIの限界とその影響につ  
いてお話をいただきます。たまたま昨日、石橋  
湛山賞の授賞式がございまして、やはりAIと  
教育の問題で新井紀子先生という若い先生が受  
賞されましたが、皆さんからもAIについては

きちんとお話をここで聞きたいというご意見が  
かなりございまして、人選が難しかったわけで  
ございますが、野口先生は最責任の方の一人  
であると思います。今日はAIの本質的なこと、  
それから、特に経済界に与える影響についてき  
ちんとしたお話を伺えると思います。

それから、先生のご著書の『戦後経済史』と  
『1940年体制』はいずれも名著として有名  
でございます。『1940年体制』は割に最  
近増補改訂版を出しました。多少廉価で手に入  
りますので、お読みでない方はお帰りにぜひお  
求めいただければと思います。

それでは野口先生、よろしくお願いいたしま  
す。（拍手）